



4年 國分 隼太郎くん

※ぼくは、はり
このお面を作
りました。ほ
つべのふくら
みを工夫しま
した。



『はりこのお面』



1年 下河望美さん

※6年生におて
つだいをし
てもらって、お
いもほりをし
ました。



『おおきないも』



あつまれ みんなの 力作

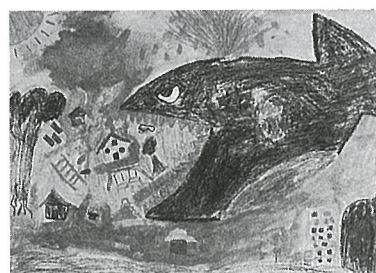


『アコーディオンをひく友達』



5年 吉田真琴さん

※アコーディオ
ンを、一生け
ん命ひいてい
る友達の表情
がよく表われ
るように書き
ました。



『くじらのあくび』



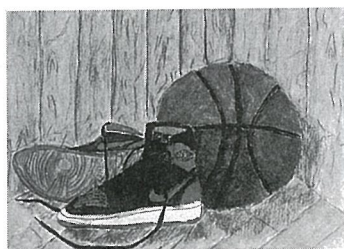
2年 越川恵梨奈さん

※くじらが、あ
くびをしてい
るところがむ
ずかしかった
です。



6年 越川秀直くん

※ぼくのバス
ケットシューズ
を、光の当
たり方を色で
工夫しました。



『バスケットシューズ』

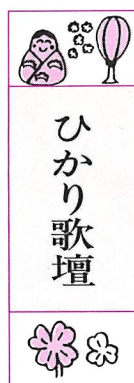


3年 大木宏美さん

※みんなて育て
たひまわりを
かきました。
種を一つぶ
つぶぬるのが
大変でした。



『ひまわり』



ひかり歌壇

鈴木甲子幸 (白磯)

早天に水を求めて争ひし

殉難碑建つ栗山川に

殉難碑に想ひを寄せる心状が歌の
流れの中からよく理解されます。

越川 福子 (宮内)

朝の陽に雪の輝く葉陰より

覗ける椿紅ほころばす

細やかな観察から生れる美しい詩
情が見事に表現されました。

伊藤 鏡子 (虫生)

雪積みし二二六事件思ひ出づ

彼の焦燥を友と語らな

過日の大雪を目の辺りに見て遠い
学生時代にショックを受けた重い
事件の感慨が甦った事でしょう。

土屋 好 (虫生)

事もなく過ぎし一日よ陽の匂ひ

ふむ蒲団に今宵ぬくもる

予後の作者にとって事なく過ぎた
一日への感謝に満たされた心持ち
がよく表現されました。

評者 竹内 紀葉